

第二期県立高等学校再編計画（案）地区別説明会 実施結果

H29. 8. 1 教育委員会事務局総務課高校再編推進担当

1 実施状況

NO	実施日	会場		参加人数	意見発表者	意見書提出者
1	7月9日（日）	芳賀地区	益子町民会館	25名	3名	4名
2	7月9日（日）	塩谷・南那須地区	小川総合福祉センター	66名	7名	15名
3	7月10日（月）	那須地区	那須野が原ハーモニーホール	60名	2名	5名
4	7月11日（火）	上都賀地区	日光市中央公民館	25名	2名	2名
5	7月12日（水）	宇都宮地区	栃木県総合文化センター	75名	9名	4名
6	7月13日（木）	下都賀地区	栃木市栃木文化会館	37名	9名	2名
7	7月14日（金）	安足地区	足利市民会館	140名	15名	12名
7会場 計				428名	47名	44名

2 意見発言者及び意見提出者の主な意見の要旨

※（ ）内の数字は類似意見要旨の発言者及び意見書提出者の数。

（1）全日制高校の規模と配置の適正化

①規模の特例（特例校）

- 地域の実情を踏まえ、特例校を今後とも存続させて欲しい。(10)
- 特例校に対して、十分な予算措置や施設の整備、教員の加配などの支援をお願いしたい。(7)
- スクールバスの導入や交通費の補助など、市や県には通学しやすい教育環境を整備して欲しい。(5)
- 学級減ではなく、学級定員を40人から35人などに減ずることで対応できないか。(4)
- 特例校と指定されてから準備するのでは遅い。できれば、特例校となる年度を示して欲しい(1)
- 特例校となる年度を、新学習指導要領が始まる年度と揃えられないか。(1)
- 県立高校の入学者数を確保するために、全国募集の拡大や、二次募集の実施を検討できないか。(2)
- 魅力と活力ある学校を創っていくためには、将来的には特例校の統合もやむを得ない。(2)

②学校の統合

【足利高校と足利女子高校の統合・共学化】

- 統合に賛成であり、他地区に負けない進学校にして欲しい。(3)
- 統合した場合、両方の敷地をうまく活用して欲しい。(1)
- 統合しても、両校の制服は維持して欲しい。(2)
- 統合に関しては、新校の開校として再編して欲しい。(1)
- 統合新校は共学としながらも、クラスは男子部と女子部に分けてはどうか。(2)
- 統合については、十分な分析と論議が必要ではないか。(2)
- 統合計画は安易であり、伝統校の統合には反対である。(6)
- 安足地区から男女別学校の選択肢がなくなってしまうのは問題である。(3)
- 女子校における女子教育は非常に重要であり、共学化が良いとは思わない。(1)
- 両校を小規模化して、維持することはできないか。(3)
- 両校を維持したまま、教員が移動する仕組みは考えられないか。(1)
- 生徒に対して共学・別学についてのアンケート調査を実施すべきではないか。(1)
- 足利市から他市へ生徒が流出しているが、統合・共学化すれば流出が止まるとは思えない。(3)
- 足利高校のみを再編することとし、足利女子高校は女子校のまま維持してもらいたい。(1)
- 足利高校・足利女子高校の統合・共学化よりも、足利高校と足利清風高校を統合すればよい。(1)
- 新校の生徒に負担が掛からないよう、新校舎はH34年の統合までに整備すべき。(1)
- 統合新校の新校舎は必要ない。費用の無駄である。(1)

③男女別学校の共学化

【宇都宮中央女子高校の共学化】

- 宇都宮中央女子高校の共学化は母校がなくなるようで寂しいが、より良い高校にして欲しい。(2)
- 伝統校を再編してしまえば、新校は伝統校でなくなってしまう。(3)
- 女子校の共学化により、女性リーダー育成など女子の人間形成の場がなくなるのではないか。(2)
- 学区は廃止されたのだから、旧学区に基づき男女の募集定員の片寄りを是正する必要はないのではないか。(1)
- 県教委が男子校の宇都宮東高校を共学の中高一貫校に再編したため、宇都宮地区の男女募集定員の片寄りがあったのではないか。(1)
- 男女別募集定員に片寄りを是正するために、宇都宮東高校を男子校に戻せないか。(1)
- 共学校の募集定員を増やすことなどによって、男女別募集定員の片寄りを是正できないか。(1)
- 宇都宮中央女子高校は校名を何度も変更しているため、「中央」という名前は残して欲しい。(2)

【共学化全般】

- 男女共学化に賛成である。推進していただきたい。(1)
- 男女別学校の共学化は、寂しい限りだが、時代の流れでいたしかたない。(3)
- 別学校を共学化しても、在籍者の男女比に片寄りが生じるのではないか。(2)
- 今後、他の男女別学校の共学化も進めるのか。(2)
- 全国で男女別学校が残っているのは3県のみと聞く。モデルケースとして残していただきたい。(1)

④学科の構成と配置の適正化

- 普通系学科と職業系専門学科の比率を7：3で維持することについて十分理解できる。(1)
- 職業系専門高校においては、より専門性のある学校となるよう期待する。(1)
- 少子化の流れの中で、職業系専門学科の統合や改編はしかたない。(2)
- 今市高校の総合学科を普通科へ学科転換して欲しい。(1)
- 今市高校の総合学科は中学生にとって魅力的であるので、総合学科のまま維持して欲しい。(1)
- 栃木農業高校においては、今回の再編を機に、施設・設備の整備も行って欲しい。(5)
- 小山城南高校の福祉系列を充実した場合、総合学科の特色のバランスが崩れる心配がある。(1)
- 足利清風高校の情報処理科を閉科することは、地域の中学生の選択肢を狭めることになる。(2)

(2) 特色化の推進

①単位制高校

- 単位制は、少人数指導や選択科目の幅が拡大するなど魅力的な制度であり、積極的に導入して欲しい。(4)
- 単位制の導入は、生徒の実状や教員配置、運用の面で課題があるのではないか。(3)
- 単位制の導入でどれだけ進学実績が伸びるのか。伝統校を統合や共学化してまで導入する意味はあるのか。(1)
- 馬頭高校に単位制を導入するが、多様な学びだけでなく、進学ニーズも考えられる。(1)

②コミュニティ・スクール

- コミュニティ・スクールにおいては、地域住民の意見が重要であろう。(1)
- 学校運営協議会を設置し、地域と一体となった学校運営を検討するためには時間が必要である。(1)
- 中学生の高校選択の参考となるよう、学校運営に関する方向性を早い段階で示す必要がある。(1)
- コミュニティ・スクールについて理解を深めるため、委員の研修等が必要である。(2)

③その他

- 周辺部の高校に中高一貫教育校を導入し、生徒の都市部への流出を食い止められないか。(1)
- 進学校は、より高い進学実績の成果を出せるよう学習内容の充実を図って欲しい。(1)
- 「学び直し」を一層充実させるなど、特色ある学校づくりを進めて欲しい。(1)
- 子供の興味・関心を伸ばすことは重要である。高校段階でもその手立てを行って欲しい。(1)

(3) 定時制・通信制について

①定時制について

- 定時制の再編では、3年で卒業できる制度を導入するなど高校の魅力化が図られている。(1)
- 定時制の専用教室の確保は喫緊の課題であり、何らかの方法で確保していただきたい。(2)
- 職業系専門高校の定時制を普通科に改編するなら、普通科高校に移設してはどうか。(1)
- 全日制と定時制では、卒業後の就職や進学における格差が大きいので、解消して欲しい。(1)

②通信制について

- 周辺部の高校の空き教室を利用して、通信制を設置できないか。(1)

(4) 計画案について

①計画案について

- 第二期計画案では、県教委の努力が具現化しており、県教委の尽力に感謝したい。(2)
- 難しい表現が多く、計画案の理解に時間が掛かった。(1)
- 計画策定の際は、他県の状況も注視しながら、広く議論を重ねていく姿勢を堅持して欲しい。(1)
- 計画を策定するに当たり、他県や全国と比べることなく、栃木県独自の姿を見せて欲しい。(1)
- 高校再編推進担当には女性がいらないようであり、改善して欲しい。(1)

②地区別説明会について

- 地区別説明会の説明を受け、県教委の考え方をよく理解することができた。(4)
- 地区別説明会の周知期間が短く、回数も少ないのではないか。方法を工夫すべきである。(5)
- 計画案の説明を聞きたい保護者が多くいると思う。改めて、説明会を開催できないか。(5)
- 計画案について、地区毎にどのような意見が出されたのか知りたい。(1)
- 今後も同窓会に対して、高校再編に関する情報を提供して欲しい。(1)

(5) その他

- 栃木県の教育の質を高めるために全力を尽くしていただきたい。(2)
- 進学実績を向上させるために、教員の質を高めると共に、熱意のある教員を配置して欲しい。(3)
- 県は、教育にもっと予算を掛けるべきである。(2)
- 公立高校の定員だけでなく、私立高校の定員も削減する必要がある。(2)
- 閉校となった高校の施設をうまく利活用して欲しい。(1)
- 統合校の記念展示会や、校歌を披露する行事の開催、記念本の製作などを行って欲しい。(1)